講義科目名称	英語学研究Ⅰ	副題	Introduction to Linguistics
英文科目名称	English Linguistics Studies Ⅰ		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
吉村　敬子			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目 □実務経験のある教員による授業科目 □実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等 授業で使用する言語 □日本語 ■英語 □その他 アクティブラーニング ■アクティブラーニング要素を取り入れている
授業の内容（概要）	このコースでは、言語学の主な分野を紹介し、主に英語を例として言語理論の基礎的な概念を学んでいく。具体的な学習内容としては、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の分野について理解を深め、さらに学生が興味のある分野を次の中から３つ選び学ぶ：談話分析、言語と脳、第一言語獲得、第二言語習得、ジェスチャーと手話、歴史言語学、社会言語学（地域・社会）、言語と文化）。授業形式としては、事前に英語のテキストを読み、練習問題（study questions）などを活用して学生が内容を予習する。授業内では、study questionsの解答を確認しながらグループディスカッションなども行い、より理解を深める。まとめの回には、テキスト内の割り振られた課題（Tasks）について学生が発表を行い内容を復習する。集大成として、学生は自分の興味のある題材（分野）を選び、自ら考察・研究した内容を発表するとともに、レポートにまとめる。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
授業の目的	このコースの主な目標は、音声学（音）、音韻論（音の構造とパターン）、形態論（単語の構造）、統語論（文の構造）、意味論（単語と文の意味）、語用論（話し手が言語表現をどのように使ってコミュニケーションをとるか）という言語学の基本分野を理解し、言語理論の基礎を理解することである。それにより、言語学（英語学）とはどのようなものか、どのようなアプローチや理論があるのかを知り、自らの研究の興味を探り見つけ出す力を養う。このコースは、国際コミュニケーション研究科のDP1（ディプロマポリシー1）とDP３の達成に関与している。
到達目標	このコースを履修後、学生は次の力を身につける。言語学の基本的な概念と方法論を具体例を使って説明することができる。様々な言語現象についてデータを考察し、指定された骨組みを適用して分析し、それを分かりやすく口頭でも書面でも表現・説明することができる。
授業計画	第１回　授業の概要、言語学の諸分野の紹介 授業の概要をシラバスを使い説明し、扱う分野と内容、課題などを説明する。テキストの目次を参照しながら、学生と話し合い、新たに３つのトピックを決定する。学生の課題(Tasks)発表の分野の割振りをする。 第２回　音声学（第3章） 人間の言語そして英語の音についての特徴を学び、言語音をどのように分類・分析できるかを学ぶ。音を表す記号として国際発音記号(IPA)に親しむ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第３回　音韻論（第4章） 言語における音のパターンについて学び、音素、異音、最小対・最小対立、音素配列などの概念を学ぶ。また、英語の音節の特徴、実際の発音における音の変化のパターンについても学ぶ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第４回　形態論（第6章と第5章の一部） 語はどのように形成されているのか、語の内部構造がどのようになっているのか知り、形態素とその種類や特徴、また異形態などの概念を学ぶ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第５回　形態論（第5章）、統語論の最初（第7章） 前半は、語形成の方法として、派生以外の方法を学ぶ。後半は、文の構造について学ぶにあたり、構成素分析について学ぶ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第６回　統語論（第8章） 文の構造にはどのような規則性があるのかを学び、構成素 (constituent)の種類と名称を理解し、句構造規則、樹形図、移動の規則など、生成文法の理論に親しむ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第７回　まとめ・復習のための学生発表 それぞれの分野において、テキスト内の割り振られた課題（Tasks）について学生が発表を行い、これまでの講義内容（音声学、音韻論、形態論、統語論）の復習をする。それぞれの発表後に、Q&Aをもうけ、他の学生の見方や考え方も共有し、議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第８回　意味論（第9章） 主に語の意味に関して、言語学においてはどのような分析方法があるのかを学ぶ。特に、意味素性(semantic features)、主題役割 (thematic roles)、様々な意味関係について学ぶ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第９回　語用論（第10章） ことばが実際のコミュニケーションの場面においてどのように解釈できるか、発話することによって話者はどのような行為を行っているのかなど、言語の使用について学ぶ。特に、コンテクスト、直示表現、推論 (inference)、照応 (anaphora)、前提 (presupposition)、発話行為などの概念を学ぶ。練習問題とディスカッション。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第10回　語用論（第11章の一部） グライスの協調性の原理を学び、人がコミュニケーションを取る際、どのように相手の意図を汲み取るかを理解する。会話の公理、会話の推意 (conversational implicature)などの概念を学ぶ。練習問題により実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第11回　トピック１（談話分析、言語と脳、第一言語獲得、第二言語習得、歴史言語学、社会言語学（地域・社会）、言語と文化から選択） 学生の選んだトピックについて学ぶ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第12回　トピック２（談話分析、言語と脳、第一言語獲得、第二言語習得、歴史言語学、社会言語学（地域・社会）、言語と文化から選択） 学生の選んだトピックについて学ぶ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第13回　まとめ・復習のための学生発表 それぞれの分野において、テキスト内の割り振られた課題（Tasks）について学生が発表を行い、これまでの講義内容（意味論、語用論、その他２つ）の復習をする。それぞれの発表後に、Q&Aをもうけ、他の学生の見方や考え方も共有し、議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第１４回　振り返り・課題レポートとプレゼンテーションについて このコースで学んできたことを復習しながら、それぞれの課題レポートに向けて、再度言語を研究することや分析の方法について考え、特に関心があることについて話し合う。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業) 第15回　課題レポートのプレゼンテーション 学生は自分の興味のある題材（分野）について、自ら考察・研究した内容を発表する。（レポートも提出）
テキスト	Yule, George (2022) The Study of Language (8th ed). Cambridge University Press. (ISBN: 978-1009233408)

テキスト購入方法	各自購入（8th editionなので、必ず確認）
参考文献	O'Grady, Archibald, and Katamba. (2011). Contemporary Linguistics: An Introduction. 2nd ed. Pearson Education Limited. Parker and Riley. (2004). Linguilstics for Non-Linguists: A Primer with Exercises. 4th ed. Allyn & Bacon. 安藤・澤田 （編）(2001) 英語学入門　開拓者 三原・高見（編）(2013) 日英対照：英語学の基礎　くろしお出版
成績評価の方法	予習・復習15%、予習内容の発表20%、グループディスカッション・議論5%、課題プレゼンテーション20%、課題レポート40%
教員への連絡方法	授業の前後、メール
履修上の注意	授業は全て（読み書きも発表も）英語で実施する。
授業外学修情報（予習復習	授業前は、指定されたテキストの箇所を必ず読み、指定された練習問題に取り組む。また、発表がある場合は、発表の準備をしっかり行う。授業後は、学んだことを復習し、練習問題の見直しやあらたな課題に取り組む。1学期の授業外学修時間は合計30時間であり、1回の授業にあたり約2時間の予習・復習時間が求められる。
学生へのメッセージ	言語学・英語学の諸分野を把握したいという学生に、言語学への入門の科目として履修を勧める。